

〈桑の実〉

散歩コースに“桑の実ロード”がある。勝手に命名したコースだ。毎年この時期になるとコース上に何本もある桑の木に美味しい実が生るのでこう呼ぶことにしている。触ってポロっと落ちるのが完熟していて美味しい。子どもの頃食べたことがあるが、たまたま未熟なものを食べたせいか、自分の中では“まずい”という印象しかなかった。大人になって、真っ黒に完熟した実を恐る恐る食べたらこれが実にうまい！。以来、桑の実ファンになって、毎年この時期になると指や舌をムラサキに染めながら食べ歩きをしている。



〈桑の実の汁で指が染まる〉



今年は手ごろな場所に大きな実のなる木があったのでたくさん採ってジャムにした。量ってみたら1kg弱。面倒なのでへタは取らずにそのまま煮込む。小さい粒々のタネが気になるが、大した問題ではない。鳥が運んで勝手に生えた桑の木は、放っておくとどんどん大きくなる。根が深いので、小さな木でも抜くのが大変だ。あちこちに生えた桑から毎年大量の実が生り、それを鳥が食べてまたタネを蒔く。養蚕をしていた頃はきちんと管理されていた桑がこうしてあちこちにはびこってしまった。野に解き放たれた桑の木、果たしてどこまで勢力圏を広げていくのだろうか。厄介者にならないければいいのだが……。